

シニア団体活動支援事業は、元気な高齢者が地域の活動に参加するきっかけをつくり、高齢者の社会参加と自主的活動を促進し、高齢者の生きがいと健康づくりを目的としております。この広報誌では、年齢を感じさせず、いきいきと活動している本事業登録団体をご紹介します。

## 女性合唱団「響」

市町村	福島市	会員数	28名
連絡先	024-558-9486	年齢構成	60～84歳
活動内容	合唱	活動場所	福島市清水学習センター分館ほか 毎週火・金曜日 10:00～12:00
代表者	会長 福島紀子(ふくしまのりこ)	会費	4,000円/1か月

## 〈ともに歌う楽しさと会う楽しさ〉

本会は、昭和47年に福島市の清水小学校PTAの「清水おかあさんコーラス」としてスタートし、平成11年に指導者に蔵田堯氏を迎え『女性合唱団「響」と改称し、長く活動を続けてきた女声合唱団である。週2回2時間ほどの練習は、歌うことの楽しさに加えて、人と会って楽しさが、団員にとっていい刺激となっていることである。



前列右から4番目が本会の常任指揮者の蔵田堯氏、その右隣が会長の福島紀子氏。

秋に行われる「おかあさん合唱祭」に向けて1月から曲の練習を始めていく。



## 〈音楽と共に成長を続けていく〉

「この小節ではどんな意味があるのだろうね?」。本会の指導者として20年を迎えた蔵田氏の優しさあふれる指導と、練習の中でそれに真剣に応える団員。音楽を通して培われた素晴らしい関係が土台となり、良質な練習時間が過ぎていく。常に指導者と団員が共に教え合い、喜び合いながら成長を続けていることこそが、本会の良さであると会長の福島氏は話されていた。これから合唱団としても成長を続けていくため、いつでも新しい団員の入会を待っているとのこと。歌うことが好きな方は、そんな環境に身を置いてみてはどうだろうか。



平成30年11月に行われた「第7回定期演奏会・20周年記念演奏会」の様子。

## しんゆうー22

市町村	須賀川市	会員数	25名
連絡先	0248-76-5324 (0800-5730024)	年齢構成	68～80歳
活動内容	ラバーレーボール、グラウンドゴルフ、ファミリーバドミントン、ボウリング	活動場所	須賀川市西袋地域体育館 毎週木曜日 9:30～11:30
代表者	会長 岡田 昇(おかだのぼる)	会費	5000円/1か月

## 〈男女関係なく誰でも楽しめるスポーツを〉

平成21年須賀川市シルバースポーツ大学事業の「シニアスポーツカレッジ」が開設され、約5カ月間様々なスポーツ体験が行われた。大学終了後、カレッジ受講者の中で有志が集まり結成されたのが本会であり、間もなく10年を迎える。カレッジの開講日が木曜日だったため、本会活動日も毎週木曜日の午前中2時間としている。活動内容は男女関係なく、誰でも楽しめるラバーレーボールやファミリーバドミントンなど、毎回会員全員全力で楽しんでいる。



「健康のため、勝負へのこだわり、人との交流など会員の楽しみ方は様々です。その基本はケガ無く楽しむことですね」と岡田昇会長。



「うわぁまた〇ちゃんがサーブか～!」など、たくさんの掛け合いと共に、ラバーレーボール(通常のボールより柔らかい)を楽しむ。



この日の参加者は20名。室内と云えど体育館の気温はかなり低かったが、楽しさと笑いの熱気で満ち溢れていた。

## 〈「親友」から「心友」へ〉

「しんゆうー22」の名の由来は、新しく出逢った友である「新友」が、親しき友の「親友」となり、ついには心の友の「心友」へと発展してほしいというのが狙いであると会長の岡田氏は話される。「今はまだ『親友』同志ではありませんが、『心友』と謙遜されるが、会員数が未だ減少したことがなく、むしろ□□ミなどで逆に増えているとのこと。会として10年を迎えて、心の友への階段を登り始めているのではないだろうか。入会・問合せは代表まで。

# 元気な町内会の活動報告（高齢者支え合いコミュニティ支援事業）

福島県では平成28年度から、元気な高齢者が身近な地域で社会活動に参加するきっかけをつくり、健康でいきいきと生活している町内会の取組を支援しています。本年度支援団体をご紹介させていただきます。

## 青木第二長寿会

### 〈青木第二長寿会について〉

飯野町は11年前に福島市と合併し、市の最南東に位置するのが青木地区である。かつては農業を営む世帯も多かったが、現在は近在する会社や工場に勤務する世帯も多い。現在の本会を構成する会員の多くは高齢化し、新人の入会が望まれている状況である。そのためには、今までの行事に加えて、魅力ある行事を実施していくことで本会の楽しさをアピールしていきたいというのが本年度の目標となった。



会長の青木良仁さんは元高校の美術教師。上記の「春夏秋冬・四季のいいの」もすべて手作り。

### 〈大賑わいとなった「大収穫祭」〉

昨年11月、飯野町の伝統行事の一つである吊るし雛を野菜・魚に形を変え、「大収穫祭～野菜と果実のつるし雛展～」と銘打ち飯野学習センター青木分館にて展示を行った。8月から準備を進め、当日は展示とともに文化発表会なども行い、のべ300名以上の来場者があった。新しい事業を進めていくことの面白さ、それぞれの得意分野を生かした係分けなど、ひとり一人が「主役」となり取り組めた結果、様々な面で大きな「収穫」を得た事業となった。

### 〈顔を輝かせて取り組む姿〉

会長の青木氏は、「長寿会としてまずは自分達自身がやって楽しいことが基本。そして、昔取った杵柄を本会にて活かしてもらいながら、役割をもって活躍してもらうことに意味がある。」と話す。さらに今後は、若い人を巻き込みながら地域一体となり進めていきたいとのことである。行政・町内会・育成会・学校・包括等との連携基盤を活かしつつ、どう展開をしていくかが課題であり楽しさであるとのことである。「我ら長寿会の自慢すべきところは、さまざまな事業に積極的に参加していること。事業に取り組むときの会員一人一人の顔が輝いている。」これからの青木地区の活躍に期待したい。

市町村	福島市飯野町		
代表	会長 青木良仁（あおきよしひと）		
加入世帯数	45世帯	所属人数	57名



取材日は今年度行った事業を映像で振り返りながら、来年に向けてどんなことをやりたいか会員皆で話し合っていた。



「大収穫祭」に向けての準備作業。裁縫の得意な会員を中心に、作業とおしゃべりが同時並行で進み、楽しい時間となった。



会長自作の看板とともに、会員それぞれの「輝いた顔」が垣間見える。



「大収穫祭」で飾った作品のうちのひとつ。大小さまざまな豆が可愛い。



「大収穫祭」が大変盛況だったため、「飯野つるし雛祭り」への参加も決定した。